



フランス教育学会研究懇話会

初等教師への道

教師への転職者に対する制度的問題と そのモチベーション

L' accès au professorat des écoles :
enjeux institutionnels et motivations personnelles des enseignantes et enseignants reconvertis.

講演者 conférenciers

フレデリック・シャルル

Frédéric Charles (Université Picardie Jules Verne)

マルレーヌ・カクオー＝ビトー

Marlaine Cacouault-Bitaud (Université de Poitiers)

フローランス・ルジャンドル

Florence Legendre (Université de Reims)

指定討論者 Commentateur

高橋哲 (埼玉大学)

Satoshi Takahashi (Saitama University)

司会 Coordinateur

園山大祐 (大阪大学)、田川千尋 (大阪大学)

Daisuké Sonoyama (Osaka University)

Chihiro Tagawa (Osaka University)

初等教師採用試験の志願者不足は今や欧米各国共通の問題となっているが、大きな関心事となっているのはフランスのみで、イングランドや、ベルギー、アメリカでは、背景にそれぞれのお国事情もあってか、差し迫った脅威とはみなされていないようだ。確かにこれらの国では採用後数年で離職してしまう教師が多いのだが、フランスでは今のところそのような事例は多くない。しかし、特にパリ地域圏の大学区の管理運営機関は、ここ15年ほど、選考のたびに、教師としての資質を持った志願者が集まらず苦慮しているという。

それとは一見矛盾する現象もここ数十年で観察されようになった。それは別の仕事に就いていた、あるいは別の職業を持っていた人々が転職して初等教育界に入って来るようになったことで、2016-2017年度は初等教師の3分の1がこのような人たちである。そして、初等教師は子育て中の母親に特に人気の《女性に適した》職業という大方の見方に反して、かなりの数の男性もその中に入っているのである。この現象は、初等教師の評価の《下落》が今も続いているという世間の常識を覆すものでもあり、まさに驚くべきことである。

教師不足への対策の一案であると同時に、教師業を持続可能な形で質を維持するためには何が必要なのか、考えてみたい。本講演では、フランスの状況報告を基に、日本及びアメリカの事例から比較検討を試みる。

「園山大祐監修『教師の社会学』勁草書房より一部抜粋」

申し込めばこちらのQRコードまたはURLから



<https://bit.ly/3OwCx6K>



50th

人間ヒトすじ50年、さらなる進化へ。
大阪大学人間科学部・人間科学研究科
創立50周年記念

2022年

9月2日(金) 18:00~20:00
オンライン、逐次通訳付

Date et heure française: Vendredi 2 septembre 2022, 11-13h (Vidéoconférence)